

1 回目は棒田明子さんからなぜ孫育てが必要かを、生まれるまでに比べ、生まれてからは母親に重圧がかかりがちで祖父母に助けを求めることが多いが、でもあくまでもサポーターであることを忘れずに、というお話に自分が頑張り過ぎて孫の面倒をみていたかも、と気づかれた方もいました。また昔の遊び場所や何で遊んだかのお話はとても盛り上がり、2 回目の交流会の時に、昔のおもちゃを用意して、皆さんと実際遊んでみるプログラムを入れるようにしました。今回ご夫婦での参加が 3 組あり、子育ての時は協力していなかったが孫の時は手伝いたいと思うけど、何をすればいいのか、また昔と違ってお菓子やおもちゃに対してあれダメこれダメといわれてなんだか窮屈だ、というお声もありました。



2 回目の交流会では、コマや羽子板、メンコで遊んだり、読み聞かせの絵本の紹介をしました。またお孫さんがいる地域でバルーンアートのボランティアをしている男性の方やサポートシステムの会員の方から、地域で声を掛けてもらえる喜びや簡単工作の作り方を教えてもらいました。お孫さんや地域の子どもたち（他孫）に自分たちが楽しかった遊びを伝え、楽しい孫育てが出来るよう、拠点も協力することをお話して終わりました。

